

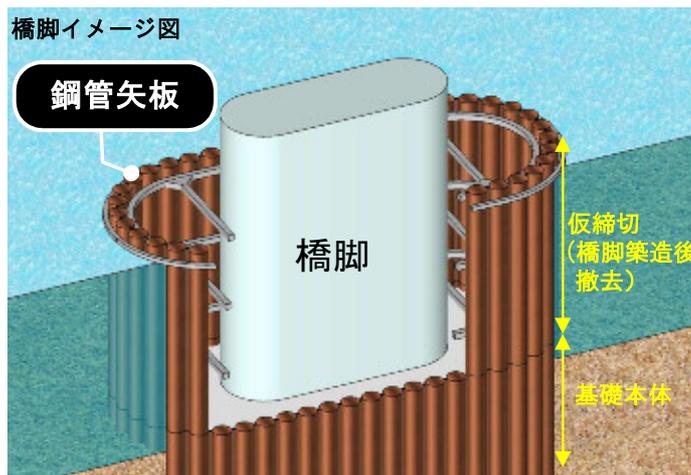


橋りょうの工事が本格化

P4橋脚の基礎打設が完了



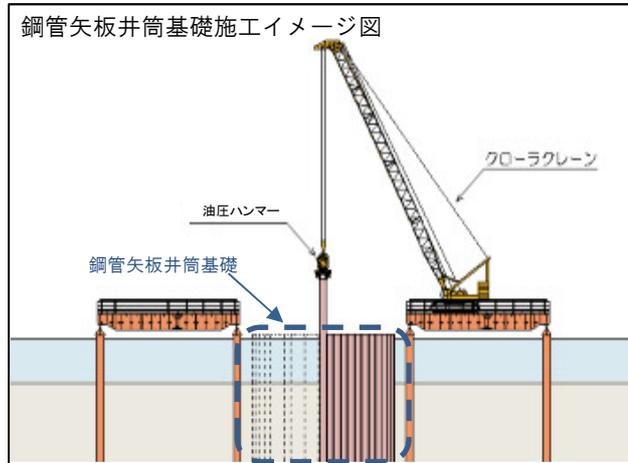
橋脚基礎打設完了 (P4橋脚)



橋脚イメージ図



橋脚基礎打設状況 (P4橋脚)



鋼管矢板井筒基礎施工イメージ図

河川部のP4橋脚では、長さ47.0m、直径1.2mの鋼管矢板69本の打設が完了しました。現場を担当する坂本は打設時の苦労として「河川の潮流がある中で、1～2センチ単位の精度で打設するのが大変でした」と話す。

引き続き、P3橋脚の鋼管矢板の打設を開始し、P4橋脚では井筒内の掘削を行います。なお、鋼管矢板打設におきましては、打撃音が生じ、皆様にご迷惑をおかけしております。『7月下旬から9月中旬にかけて、同様に打撃音が生じる工事を行います、ご理解とご協力のほどをお願いいたします。』

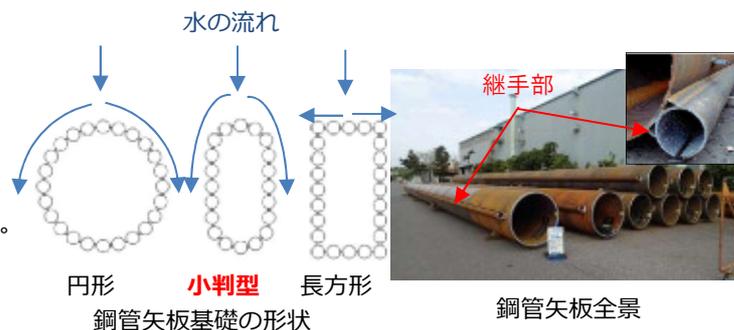


坂本主任

【土木豆知識②】 鋼管矢板井筒基礎とは

鋼管杭に杭同士をつなぐ継手がついたものを鋼管矢板といい、本橋では50mの固い地盤まで打ち込み、つなぎ合わせて橋脚の基礎としています。右上の「橋脚イメージ図」のとおり、鋼管矢板を大きな支持力が得られる基礎本体としてまた、施工時には水の侵入を防ぐ仮締切として兼用できるため、河川の大規模な橋梁で用いられる形式です。

基礎の形状は、右図のとおり、様々な形がありますが、本橋では、水の流れに出来るだけ支障をきたさない形として、細長い楕円形の小判型を採用しています。



橋のデザインの検討開始

景観の検討会を設置

橋梁のデザインを検討する「(仮称)羽田連絡道路の景観に関わる検討会」を設置し、景観に関わる専門的な知識・経験を有する有識者を交えた検討を始めました。検討会におきましては、多摩川河口の景観と調和する橋の色彩の選定や、歩く人が自然を感じられるような、歩行者空間や高欄・防護柵の形状などについて検討を進めております。詳細は、川崎市HPで公開しておりますので、皆さんご覧ください。



現地における色彩確認状況(殿町側)



検討会の様子(工事広報館にて)

干潟の保全対策が完了

干潟しゅんせつ箇所立入禁止

周辺の干潟を保全するため、しゅんせつ箇所との境(写真の緑色の線上)に鋼矢板を打設しました。『この鋼矢板(赤色の旗竿設置)の外側は水深が深くなっており、非常に危険です。干潟観察などでは、絶対に立ち入らないようお願いいたします。』

また、市やJV職員で、多摩川干潟ネットワークが主催する「干潟の生き物しらべ」に参加しました。東邦大学の風呂田名誉教授の講義もあり、多摩川の生物について、参加者の皆様と共に学ぶことができました。

干潟部での作業状況(P3作業構台設置状況)



鋼矢板の設置範囲(赤色の旗竿)

赤色の旗竿

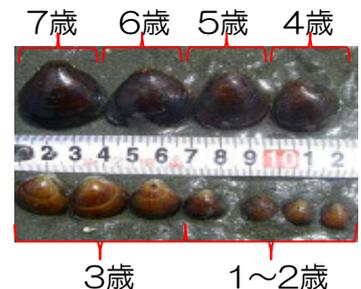
「干潟の生き物しらべ」参加状況



【多摩川河口干潟の生き物②(ヤマトシジミ)】

「シジミ」の漁獲量の99%は多摩川河口干潟にも生息しているヤマトシジミです。ヤマトシジミは海水と淡水の混じり合う「汽水(きすい)域」に分布しており、夏に約10万個の卵を水中に産卵してプランクトンの状態で水中を漂ってから、砂の中に潜って生活するようになります。シジミの寿命は10年以上と言われており、年を重ねるに連れ、写真のような成長を遂げます。

シジミは、栄養価が高く、特に夏のシジミは産卵期を迎えて栄養豊富で夏バテ防止に適していることから、江戸時代には「土用しじみ」として食べられるようになったそうです。これから夏本番に向けてシジミを食べてパワーを補充しましょう。



お問合せ先



川崎市建設緑政局広域道路整備室
羽田連絡道路建設担当

住所：〒210-0821

川崎市川崎区殿町3丁目25-25

電話：044(200)0436

FAX：044(288)1782

<http://www.city.kawasaki.jp/530/page/000>

0097966.html



五洋・日立造船・不動テトラ・横河・
本間・高田共同企業体(五洋JV)

住所：〒210-0821

川崎市川崎区殿町3丁目25-24

電話：044(201)9381

FAX：044(201)9382

<http://www.poc-site.jp/kb/tonomachi/>